

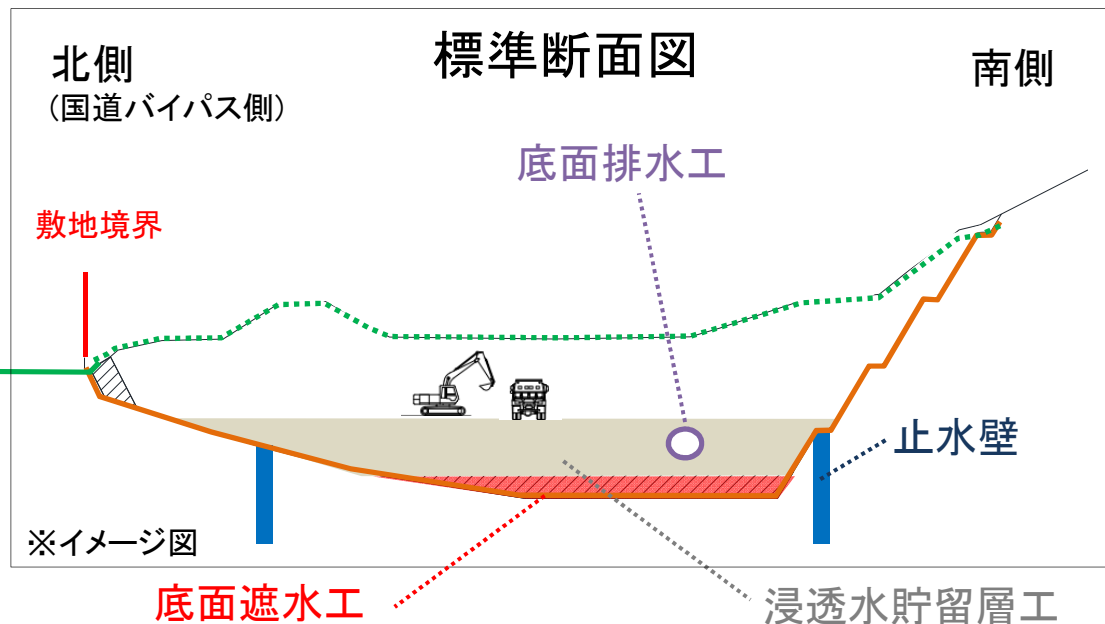
# B工区の状況①

## 進捗状況

- ・止水壁 (TRD) の造成完了
- ・底面粘性土層の欠損部分を確認
- ・現地見学会 5月25日開催

## 今後の予定

- ・底面遮水工、  
浸透水貯留層工等の施工



## 施工写真

- ① 止水壁の施工状況
- ② 止水壁の全景

# B工区の状況②



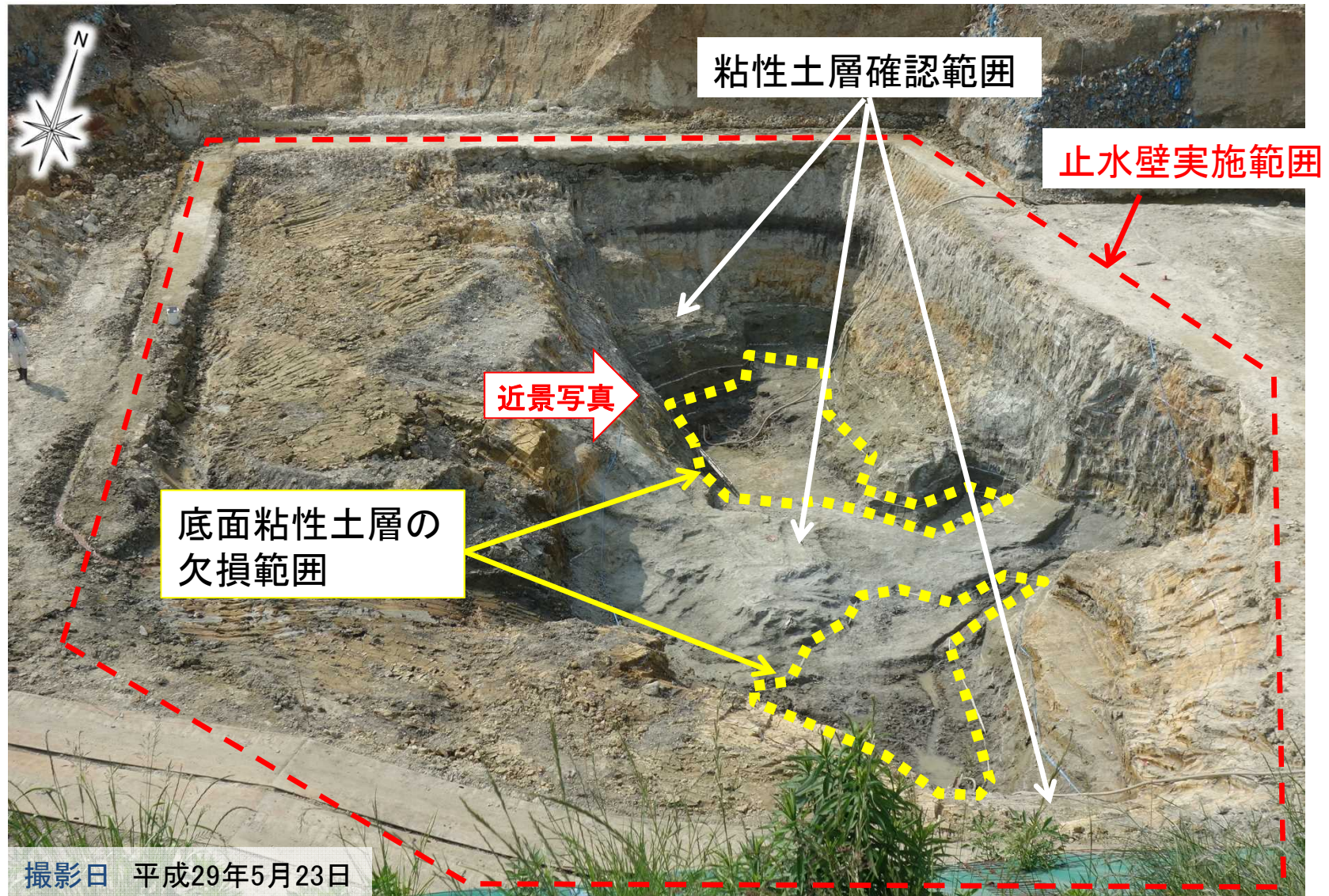
止水壁

## 施工写真

- ① B工区全景
- ② 止水壁内の掘削状況



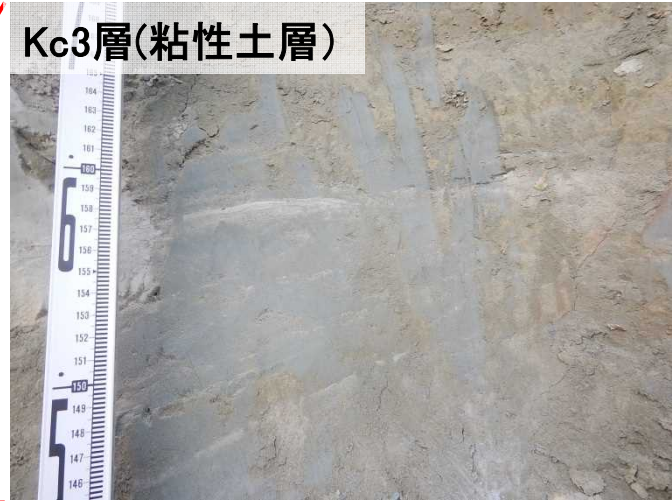
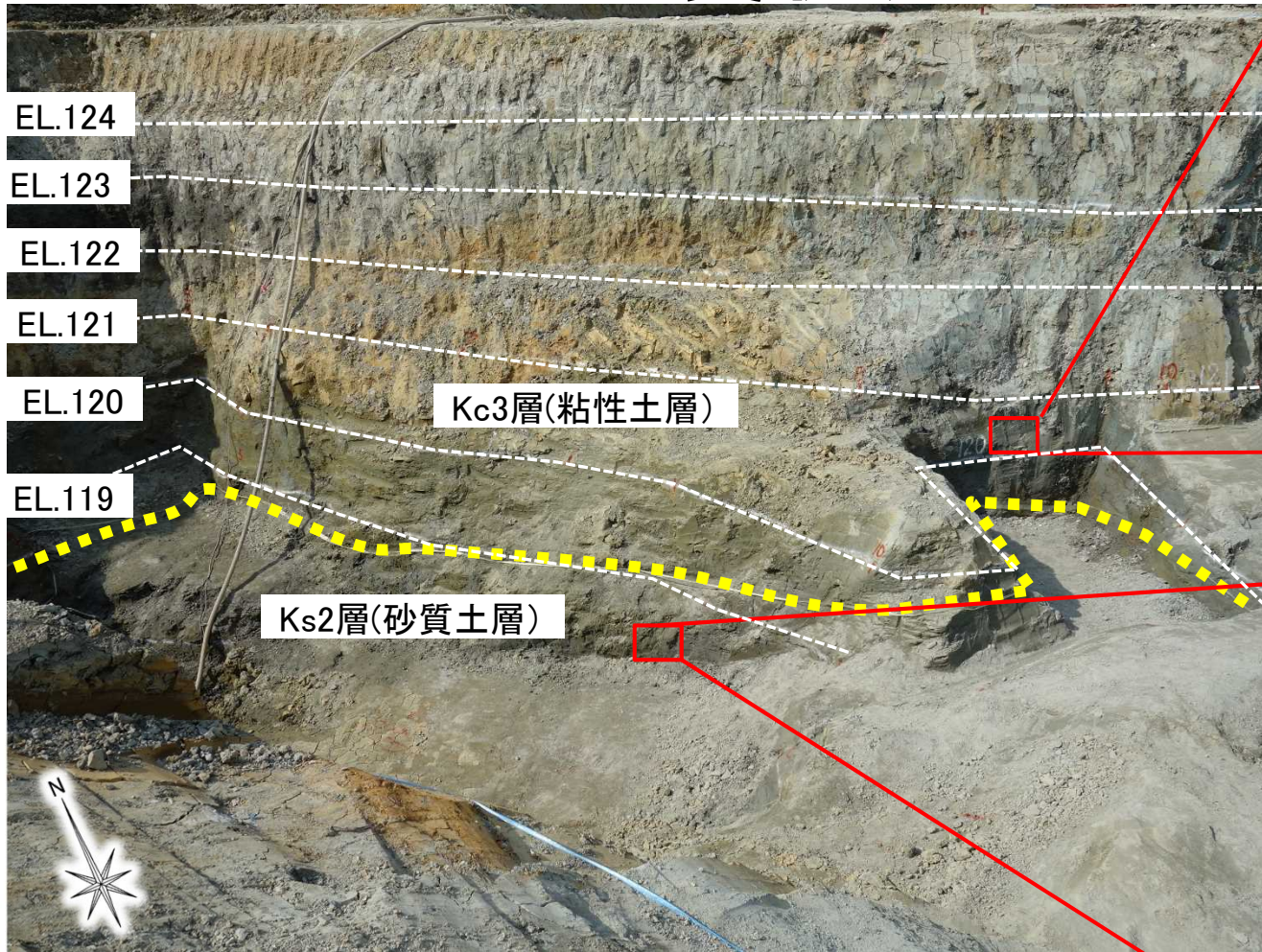
# 廃棄物土掘削(B工区)の状況



## 現在の状況

- ・ 5月23日時点で止水壁内の廃棄物掘削は完了
- ・ 全体として長さ約30m×幅約10mの範囲で底面粘性土層の欠損が確認された

# 止水壁内の地質状況



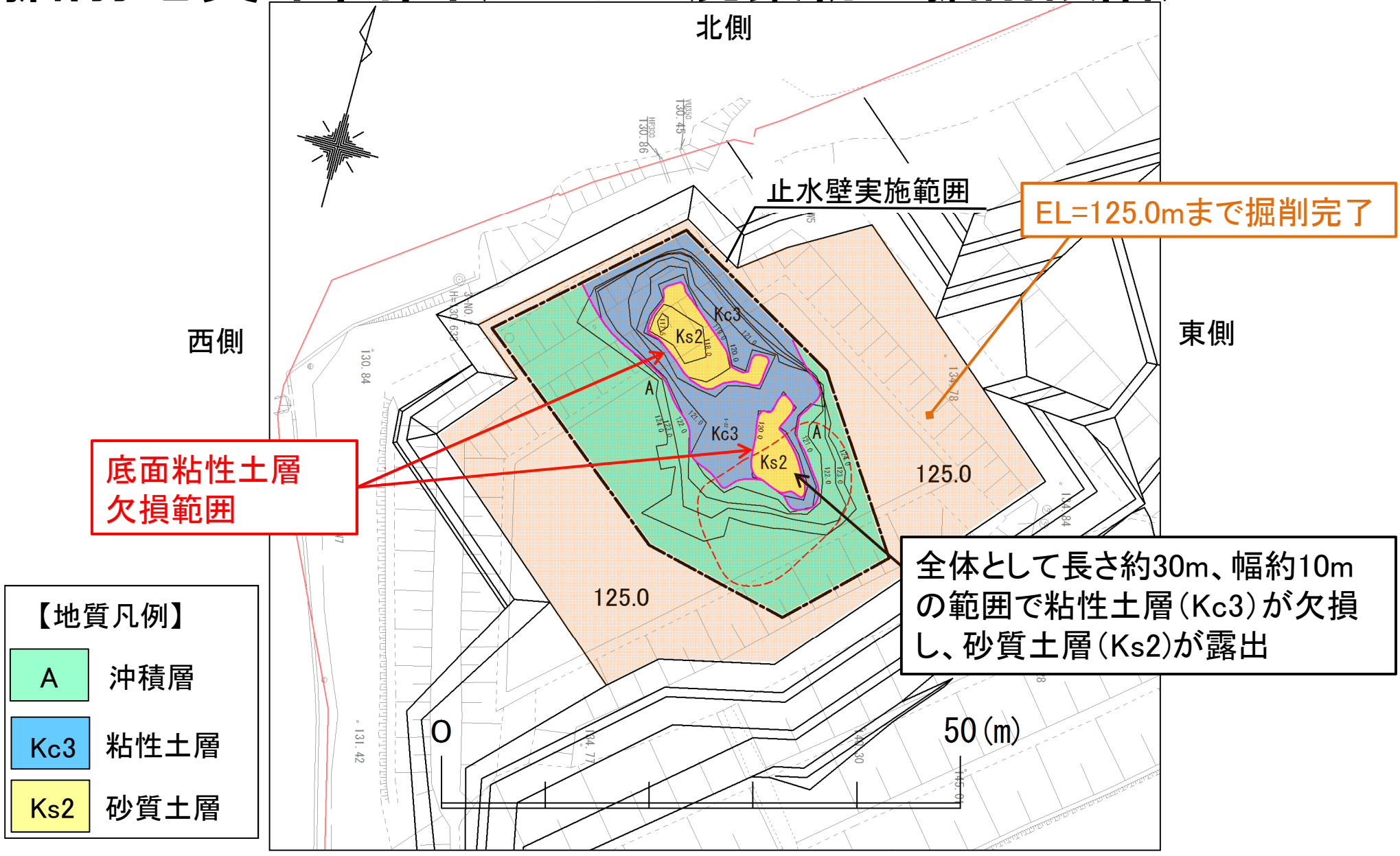
細粒で固結度が高く  
割れ目等は認められない



砂分を主体とし  
Kc3層と比較して固結度は低い

撮影日 平成29年5月23日

# 掘削地質平面図(B工区 廃棄物土掘削段階)



【地質凡例】

A	沖積層
Kc3	粘性土層
Ks2	砂質土層

EL=125.0mまで掘削完了

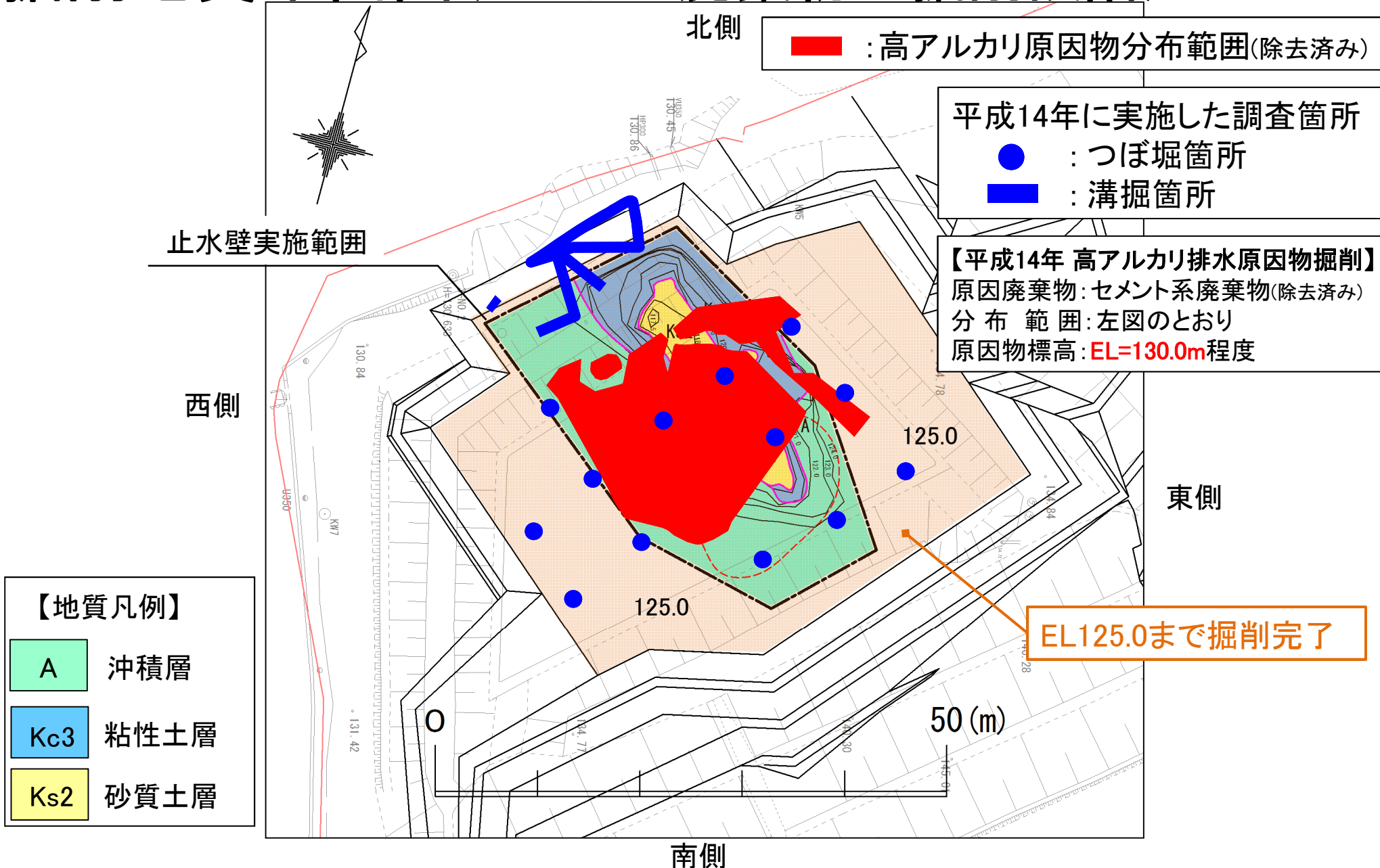
底面粘性土層欠損範囲

全体として長さ約30m、幅約10mの範囲で粘性土層(Kc3)が欠損し、砂質土層(Ks2)が露出

止水壁実施範囲

※本資料は現時点のものであり、今後詳細な調査等により変更が生ずるおそれがあります。

# 掘削地質平面図(B工区 廃棄物土掘削段階)



北側

■ : 高アルカリ原因物分布範囲(除去済み)

平成14年に実施した調査箇所

● : つぼ掘箇所

■ : 溝掘箇所

【平成14年 高アルカリ排水原因物掘削】

原因廃棄物: セメント系廃棄物(除去済み)

分布範囲: 左図のとおり

原因物標高: EL=130.0m程度

止水壁実施範囲

西側

東側

【地質凡例】

A 沖積層

Kc3 粘性土層

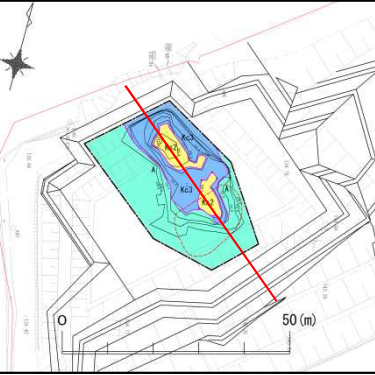
Ks2 砂質土層

EL125.0まで掘削完了

南側

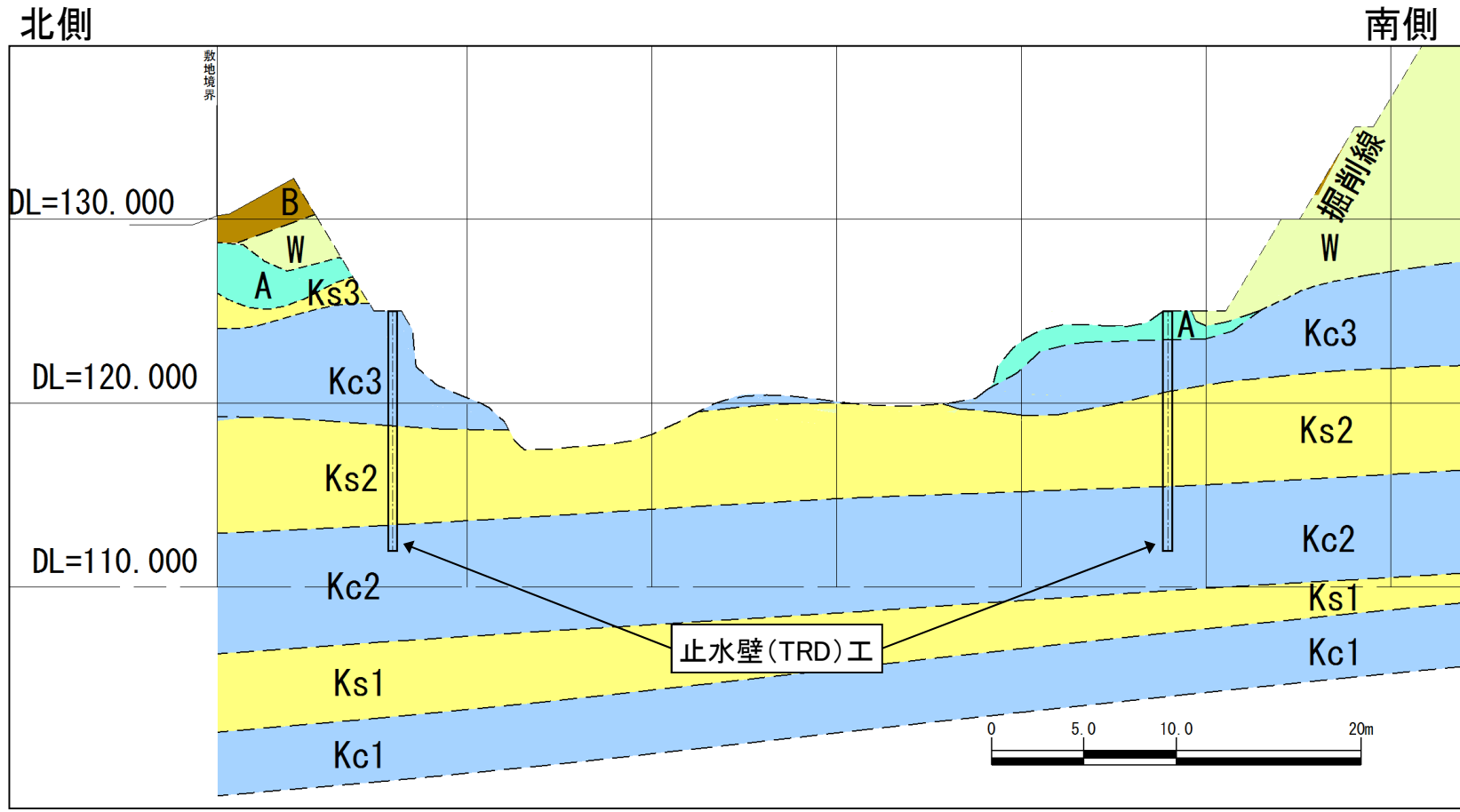
※本資料は概ねの調査位置を示すものであり、位置、範囲を確定するものではありません。

# 掘削地質断面図(B工区 廃棄物土掘削段階)



**【地質凡例】**

W	廃棄物土層
B	盛土層
A	沖積層
Ks3	砂質土層
Kc3	粘性土層
Ks2	砂質土層



※本資料は現時点のものであり、今後詳細な調査等により変更が生ずるおそれがあります。

# 現場見学会の開催

## 概要

- ・ B工区の地山範囲の状況について開催



## 開催結果

開催日:平成29年5月25日  
参加者:6名



## 次回見学会

- ・ 工事の進捗に応じてH区画等で開催予定



# 底面遮水工 断面図(B工区 案)

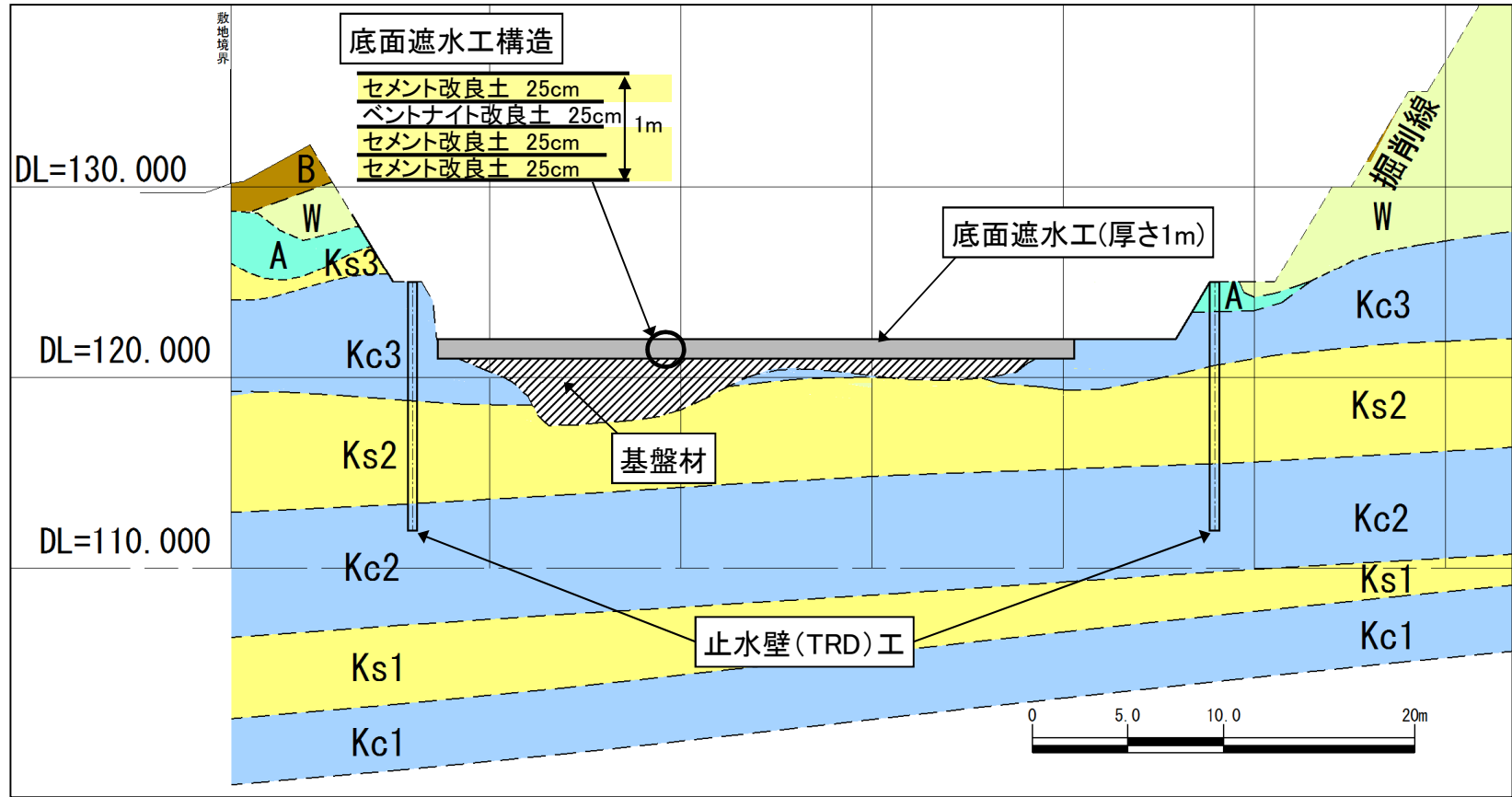


北側

南側

**【地質凡例】**

W	廃棄物土層
B	盛土層
A	沖積層
Ks3	砂質土層
Kc3	粘性土層
Ks2	砂質土層



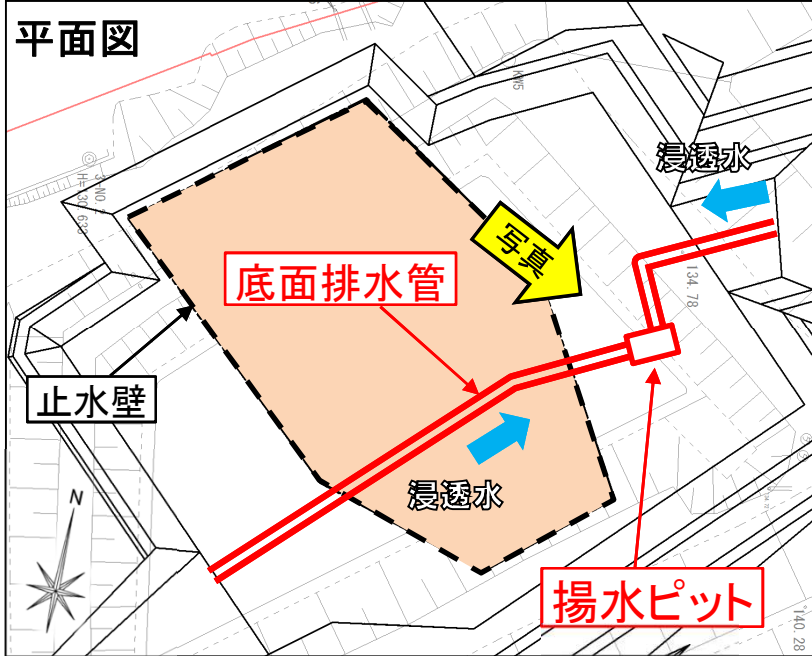
※本資料は現時点のものであり、今後詳細な調査等により変更が生ずるおそれがあります。

# 底面遮水工 平面図 (B工区 案)



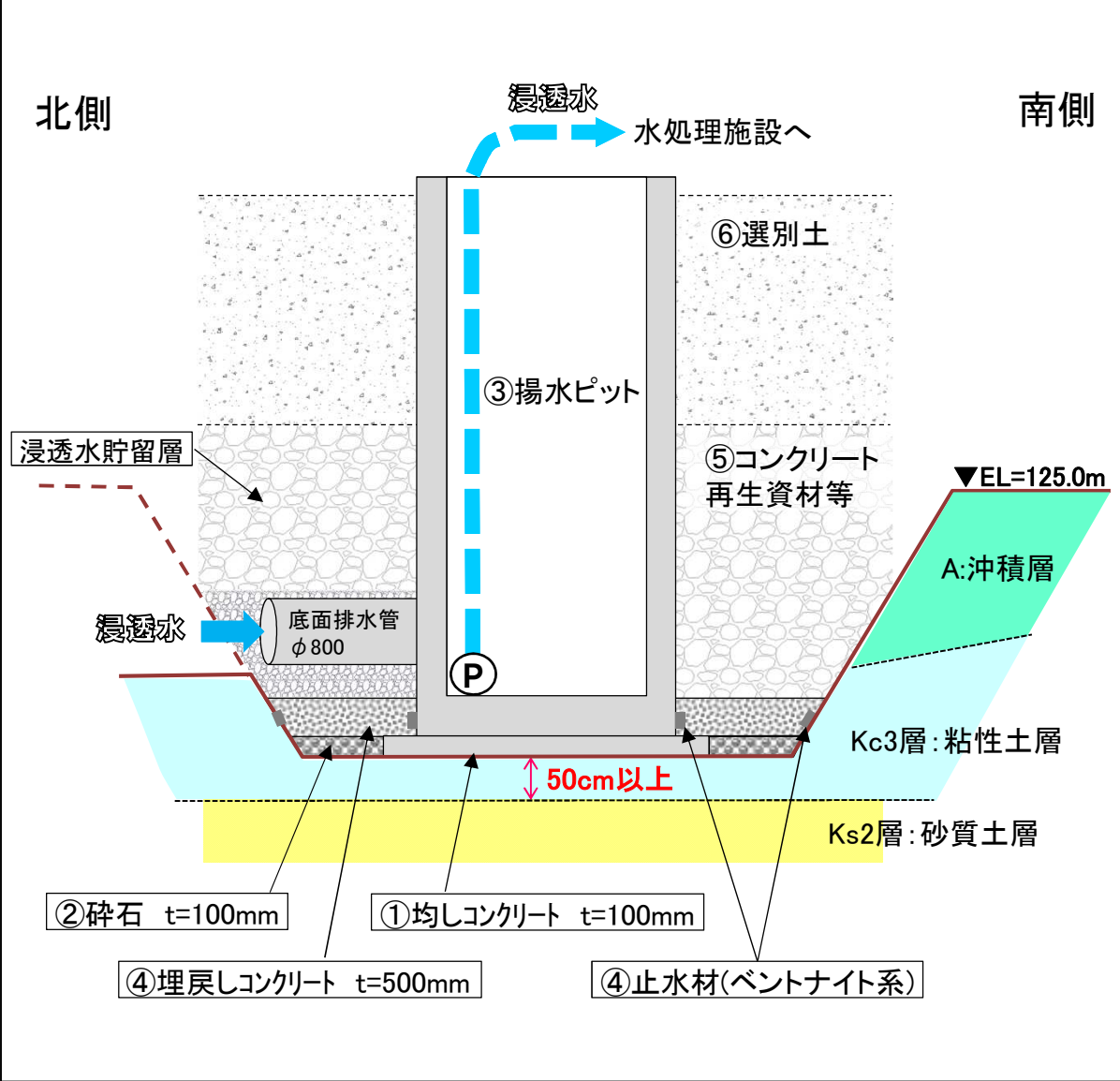
※本資料は現時点のものであり、今後詳細な調査等により変更が生ずるおそれがあります。

# 揚水ピット (B工区)



## 揚水ピット 作業工程(案)

※イメージ図



撮影日 平成29年6月1日

※本資料は現時点のものであり、詳細な調査、施工状況等により変更が生ずるおそれがあります。

# 掘削した廃棄物

## 主な廃棄物

- ・ B工区では木片等の可燃物やガラスびん等の不燃物、ドラム缶、廃石綿の他、栗東町銘のごみ袋が出てきました

ドラム缶(つぶれて中身は空)



撮影日 平成29年3月8日

ドラム缶の搬出(荷姿)



撮影日 平成29年3月30日

廃石綿の混入が疑われるモルタル固結物



撮影日 平成29年3月21日

栗東町銘  
のごみ袋



撮影日 平成29年3月14日

木片

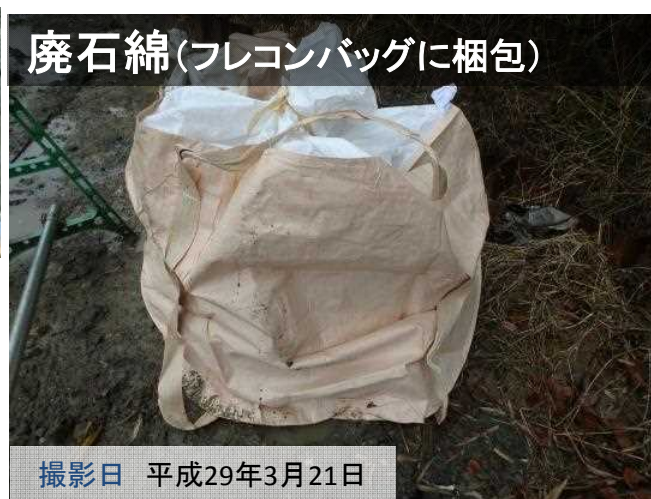
撮影日 平成29年3月22日



ガラスびん(飲用)

撮影日 平成29年3月18日

廃石綿(フレコンバッグに梱包)



撮影日 平成29年3月21日

# 二次対策工事土工・処分実績(平成29年4月末現在)

項目		数量	単位	前回(2月末)との差	
仮置物撤去土量		21,300	m <sup>3</sup>	0	
掘削土量		105,600	m <sup>3</sup>	+11,100	
埋戻可能物仮置土量		110,100	m <sup>3</sup>	+9,800	
埋戻再生資源		18,200	m <sup>3</sup>	+1,900	
場外への搬出・処分量	廃棄物	可燃物(主に廃プラスチック類で木くず等が混じるもの)	16,500	t	+1,300
		不燃物(ガラス陶磁器くず、金属くず)	1,070	t	+90
		有害物(掘削由来:バッテリー、感染性廃棄物相当物)	9.4	t	+0.07
		有害物(場内残置物:バッテリー、変圧器等)	0.8	t	0
	廃棄物混じりの土	有害物(B工区他)	4,500	t	+230
		ドラム缶およびその内容物が浸潤した 廃棄物土・医療系廃棄物混じり土	105	t	+31
		鋭利なものを含む等、選別に適さない廃棄物土等	590	t	0
		セメント混合廃棄物土	118	t	0
	選別土等	ふっ素が土壤環境基準を超過したもの	3,000	t	0
		覆土等で鉛が土壤環境基準を超過したもの	1,400	t	0
	資源化	金属くず	97	t	0

# 選別土 および 覆土等 の適合確認分析

## 適合確認分析

- ・ 300m<sup>3</sup>毎に分析を実施して埋戻しの可否を判断
- ・ 分析項目はカドミウム、水銀、鉛、ひ素、ふっ素、ほう素、ダイオキシン類、TOC

(平成29年5月22日現在)

項目	数量	単位	前回(第19回協議会)との差	備考
<u>選別土</u> 適合確認回数	277	回	+ 28	
うち不適合判定数	6	回	0	不適合項目:ふっ素
<u>覆土等</u> 適合確認回数	54	回	+ 3	
うち不適合判定数	5	回	0	不適合項目:鉛

内容の詳細については別紙「適合確認分析の結果について」をご覧ください